

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642
講義名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになれば、対面で指導することもある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641
講義名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 対面授業		

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになれば、対面で指導することもある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(1) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西1-104. 第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II
第14回	Porträt: LaBrassBanda
第15回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(2) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西1-104. 第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Junge Unternehmen
第8回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第9回	Gewissensfragen
第10回	Globalisierung I
第11回	Globalisierung II
第12回	Crowdfunding I
第13回	Crowdfunding II
第14回	Porträt: Petra Jenner
第15回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(3) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2-506. 第1学期 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。ミンネザング(恋愛抒情詩)の代表作をいくつか読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(4) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2-506. 第2学期 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。ミンネザング(恋愛抒情詩)の代表作をいくつか読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(1) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	Franz Kafka "Erzählungen"		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西1-214. 第1学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Seminar soll es vor allem um zwei Erzählungen Kafkas gehen, die zu seinen wichtigsten überhaupt gehören dürften: „Das Urteil“ (1913) und „Die Verwandlung“ (1915). Beide Texte spielen zunächst einmal im Binnenraum der Familie, deren Funktionsweisen, z.B. in Hinsicht auf Redestrategien oder Machtverhältnisse, gezeigt werden. Gleichzeitig verweist dieser Binnenraum aber auch auf übergeordnete politische und gesellschaftliche Verhältnisse. Im Seminar soll zunächst durch eine sorgfältige Lektüre ein möglichst genaues Textverständnis hergestellt werden. Darauf aufbauend werden interpretatorische Fragen gestellt. Im ersten Semester des Studienjahres wird es zunächst um „Das Urteil“ gehen, wobei Kafkas „Brief an den Vater“ (1919) auszugsweise ergänzend behandelt wird; im zweiten Semester steht „Die Verwandlung“ im Mittelpunkt, Kafkas so rätselhafter Text, in dem ein Mensch erwacht und sich in ein „ungeheures Ungeziefer“ verwandelt sieht.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Texten Kafkas einen Zugang zu dessen Werk kennen. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation der Texte werden verschiedene literaturtheoretische Zugänge gewählt, sodass die Studierenden einen Einblick in den interpretatorischen Methodenpluralismus erhalten. Weiter erhalten sie Kenntnisse über die soziale und politische Situation in Mitteleuropa vor dem Ersten Weltkrieg.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung: Kafka und seine Zeit
第2回	Kafkas Biografie I
第3回	Kafkas Biografie II
第4回	„Das Urteil“ – Lektüren und Verständnis
第5回	„Das Urteil“ – Lektüren und Verständnis
第6回	„Das Urteil“ – Lektüren und Verständnis
第7回	„Das Urteil“ – Lektüren und Verständnis
第8回	Kafkas „Brief an den Vater“ – Vorstellung
第9回	„Brief an den Vater“ – Lektüren und Verständnis
第10回	„Brief an den Vater“ – Lektüren und Verständnis
第11回	„Brief an den Vater“ – Lektüren und Verständnis
第12回	„Brief an den Vater“ – Lektüren und Verständnis
第13回	Interpretatorische Fragestellungen
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(2) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	Franz Kafka "Erzählungen"		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西1-214. 第2学期 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Im Seminar soll es vor allem um zwei Erzählungen Kafkas gehen, die zu seinen wichtigsten überhaupt gehören dürften: „Das Urteil“ (1913) und „Die Verwandlung“ (1915). Beide Texte spielen zunächst einmal im Binnenraum der Familie, deren Funktionsweisen, z.B. in Hinsicht auf Redestrategien oder Machtverhältnisse, gezeigt werden. Gleichzeitig verweist dieser Binnenraum aber auch auf übergeordnete politische und gesellschaftliche Verhältnisse. Im Seminar soll zunächst durch eine sorgfältige Lektüre ein möglichst genaues Textverständnis hergestellt werden. Darauf aufbauend werden interpretatorische Fragen gestellt. Im ersten Semester des Studienjahres wird es zunächst um „Das Urteil“ gehen, wobei Kafkas „Brief an den Vater“ (1919) auszugsweise ergänzend behandelt wird; im zweiten Semester steht „Die Verwandlung“ im Mittelpunkt, Kafkas so rätselhafter Text, in dem ein Mensch erwacht und sich in ein „ungeheures Ungeziefer“ verwandelt sieht.

到達目標

Die Studierenden lernen an exemplarischen Texten Kafkas einen Zugang zu dessen Werk kennen. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation der Texte werden verschiedene literaturtheoretische Zugänge gewählt, sodass die Studierenden einen Einblick in den interpretatorischen Methodenpluralismus erhalten. Weiter erhalten sie Kenntnisse über die soziale und politische Situation in Mitteleuropa vor dem Ersten Weltkrieg.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse aus dem ersten Semester
第2回	"Die Verwandlung" - Übersicht
第3回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第4回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第5回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第6回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第7回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第8回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第9回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第10回	"Die Verwandlung" - Lektüre und Verständnis
第11回	Figurenkonstellation
第12回	Thematische Aspekte / Motive
第13回	Darstellung / Erzähltechnik
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

授業方法

Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer / Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter; Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60. Minuten zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei Referatsübernahme erhöht sich die Vorbereitungszeit.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Seminar soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus diesen Teilen (Präsentation, Unterrichtsteilnahme und Testergebnis) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer / jeder Teilnehmerin über sein / ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über das Diskussionsverhalten, den Unterricht etc. gesprochen werden. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

教科書コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Arbeitsmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(1)(大学院)		
副題	文ムードと文タイプ (1)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 対面授業.第1学期 木曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

Truckenbrodt (2004)は、後に「キューバの葉巻シーン」と呼ばれる以下の会話を示し、(1a), (1b) の後に、(1c) の語順の文が不適格になり、(1d)が適格になることを示している。

- (1) Stefan: Ich hab seit Jahren nichts mehr von Peter gehört.
 Heiner: Ich auch nicht.
 #Mag er immer noch kubanische Zigarren?
 Ob er immer noch kubanische Zigarren mag?

文脈に応じて、特定の文ムードが関わっているのか(疑問文か否か)、特定の文タイプが関係しているのか(ob-VL-Sätze)、はたまた背後にある発話行為が関係しているのだろうか？

今学期は、この点に関する Lohnstein (2000, 2007) と Truckenbrodt (2006a, 2006b) の2つのアプローチを比較して考えていく。問題は、統語論、意味論、語用論に及ぶので、広い知識が必要となるので、その都度参考文献を読みながら、Gutzmann (2011) を中心において議論していく。

Gutzmann, Daniel (2011) Ob einer wohl recht hat? Zwei Satzmodustheorien für das Deutsche im Vergleich. Deutsche Sprache 1/11 (39), 65- 84
Lohnstein, Horst (2000): Satzmodus - kompositionell. Zur Parametrisierung der Modusphrase im Deutschen. Berlin: Akademie Verlag.
Lohnstein, Horst (2007): On clause types and sentential force. In: Linguistische Berichte 209, S. 63-86.
Truckenbrodt, Hubert (2004): Zur Strukturbedeutung von Interrogativsätzen. In: Linguistische Berichte 199, S. 313-350.
Truckenbrodt, Hubert (2006a): On the semantic motivation of syntactic verb movement to C in German. In: Theoretical Linguistics 32.3, S. 257-306.
Truckenbrodt, Hubert (2006b): Replies to the comments by Gärtner, Plunze and Zimmermann, Portner, Potts, Reis, and Zaefferer. In: Theoretical Linguistics 32.3, S. 387-410.
吉田 光演(2012)「主文機能としての動詞後置節の構造と意味 (Satzmodus) の関連」『日本独文学会シンポジウム「文形成とモダリティの相互関係」』S.1-5.

到達目標

- Satzmodus の Satztypenの違いを理解して説明できるようになる。
- ob-VL 文の特性を説明できるようになる。
- ob-VL 文の特性を統語論、意味論、語用論の側面から考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:問題のありかの説明、発表の仕方のガイドライン、参考文献の紹介
第2回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第3回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第4回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第5回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第6回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第7回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第8回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第9回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第10回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第11回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第12回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第13回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第14回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第15回	今学期の演習の総括

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

演習で用いる資料は、あらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	積極的に議論することを高く評価します。
その他(備考欄を参照)	50 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
- ・レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で評価します。
- ・博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、LMSで受け付け、LMSを使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

授業中にその都度指示します。

履修上の注意

履修者は、後期の「ドイツ語学演習(2)」も併せて受講することが望ましい。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が大好きな人を歓迎します。

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(2)(大学院)		
副題	文ムードと文タイプ (2)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 対面授業.第2学期 木曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

1学期に引き続き文ムード(Satzmodus)と文タイプ(Satztypen)の問題を扱う。この点に関する Lohnstein (2000, 2007)と Truckenbrodt (2006a, 2006b)の2つのアプローチを比較して考える。問題は、統語論、意味論、語用論に及ぶので、広い知識が必要となるので、その都度参考文献を読みながら、Gutzmann (2011)を中心に於いて議論していく。

Gutzmann, Daniel (2011) Ob einer wohl recht hat? Zwei Satzmodustheorien für das Deutsche im Vergleich. Deutsche Sprache 1/11 (39), 65- 84
Lohnstein, Horst (2000): Satzmodus - kompositionell. Zur Parametrisierung der Modusphrase im Deutschen. Berlin: Akademie Verlag.

Lohnstein, Horst (2007): On clause types and sentential force. In: Linguistische Berichte 209, S. 63-86.

Truckenbrodt, Hubert (2004): Zur Strukturbedeutung von Interrogativsätzen. In: Linguistische Berichte 199, S. 313-350.

Truckenbrodt, Hubert (2006a): On the semantic motivation of syntactic verb movement to C in German. In: Theoretical Linguistics 32.3, S. 257-306.

Truckenbrodt, Hubert (2006b): Replies to the comments by Gärtner, Plunze and Zimmermann, Portner, Potts, Reis, and Zaefferer. In: Theoretical Linguistics 32.3, S. 387-410.

吉田 光演(2012)「主文機能としての動詞後置節の構造と意味 (Satzmodus) の関連」『日本独文学会シンポジウム「文形成とモダリティの相互関係」』S.1-5.

到達目標

- ・Satzmodus の Satztypenの違いを理解して説明できるようになる。
- ・ob-VL 文の特性を説明できるようになる。
- ・ob-VL 文の特性を統語論、意味論、語用論の側面から考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:問題のありかの説明、発表の仕方のガイドライン、新たな参考文献の紹介
第2回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第3回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第4回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第5回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第6回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第7回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第8回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第9回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第10回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第11回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第12回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第13回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第14回	演習参加者による発表、質疑応答、議論
第15回	今学期の演習の総括

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

演習で用いる資料は、あらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	積極的に議論することを高く評価します。
その他(備考欄を参照)	50 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
- ・レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で評価します。
- ・博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、LMSで受け付け、LMSを使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

授業中にその都度指示します。

履修上の注意

履修者は、前期の「ドイツ語学演習(1)」から継続して受講していることが望ましい。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が大好きな人を歓迎します。

講義コード	M350300103	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(3)(大学院)		
副題	ドイツ語の文法化(Grammatikalisierung)(1)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M1年～2年 / D1年～3年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 独文科研究室.第1学期 月曜日 4時限 対面授業		

授業概要

内容語がその本来の語彙の意味を失い、文法的機能を持つ語や接辞に変化する現象を文法化(Grammatikalisierung)といい、ドイツ語にも数多く存在する。この授業では、Szczepaniak(2011)を講読しながら、ドイツ語の文法化について議論し、理解を深めていく。

到達目標

- ・文法化について、総合的に俯瞰して、その性質を述べることができる
- ・ドイツ語の文法化の具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:この授業の進め方
第2回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第3回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第4回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第5回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第6回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第7回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第8回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第9回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第10回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第11回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第12回	参加者発表
第13回	参加者発表
第14回	まとめとふりかえり
第15回	総括

授業方法

対面授業による演習形式。遠隔授業の場合は、Zoomを使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、時制・相法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)によりフィードバックする。

教科書

Grammatikalisierung im Deutschen. Eine Einführung. :narr Studienbücher, Renata Szczepaniak, Narr Franke Attempto Verlag, 2011, 978-3-8233-6666-9

教科書コメント

教科書は各自で購入し、第1回の授業に必ず持参すること。

講義コード	M350300104	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(4)(大学院)		
副題	ドイツ語の文法化(Grammatikalisierung)(2)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 独文科研究室.第2学期 月曜日 4時限 対面授業		

授業概要

内容語がその本来の語彙の意味を失い、文法的機能を持つ語や接辞に変化する現象を文法化(Grammatikalisierung)といい、ドイツ語にも数多く存在する。この授業では、Szczepaniak(2011)を講読しながら、ドイツ語の文法化について議論し、理解を深めていく。

到達目標

- ・文法化について、総合的に俯瞰して、その性質を述べることができる
- ・ドイツ語の文法化の具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回 内容

第1回	1学期の復習
第2回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第3回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第4回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第5回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第6回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第7回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第8回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第9回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第10回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第11回	Szczepaniak(2011)講読とディスカッション
第12回	参加者発表
第13回	参加者発表
第14回	まとめとふりかえり
第15回	総括

授業方法

対面授業による演習形式。遠隔授業の場合は、Zoomを使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、時制・相法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS(manaba)によりフィードバックする。

教科書

Grammatikalisierung im Deutschen. Eine Einführung. :narr Studienbücher, Renata Szczepaniak, Narr Franke Attempto Verlag, 2011, 978-3-8233-6666-9

教科書コメント

教科書は各自で購入し、第1回の授業に必ず持参すること。

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(3)(大学院)		
副題	19世紀のドイツ・ロマン主義文学(E. T. A. ホフマン)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 北1-404.第1学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

19世紀前半のドイツで花開いたロマン主義文学。本演習では、E. T. A. ホフマンのメルヒェン『くるみ割り人形とねずみの王様』(1816)に注目し、現実世界と幻想世界の特徴や両者の関係、遊戯の意義などの点を手掛かりに、その特徴をとらえてみます。

到達目標

- ・E. T. A. ホフマンの作品を原語で読む。
- ・作品を手掛かりに、19世紀前半のドイツ・ロマン主義について理解を深める。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	『くるみ割り人形とねずみの王様』①
第2回	〃 ②
第3回	〃 ③
第4回	〃 ④
第5回	〃 ⑤
第6回	〃 ⑥
第7回	〃 ⑦
第8回	〃 ⑧
第9回	〃 ⑨
第10回	〃 ⑩
第11回	〃 ⑪
第12回	〃 ⑫
第13回	〃 ⑬
第14回	〃 ⑭
第15回	到達度確認

授業方法

感染対策を行いながら対面での授業を考えています。演習形式で行います。遠隔に切り替える必要が出てきた場合はZoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んでください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業時に資料を配布します。

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(4)(大学院)		
副題	20世紀ドイツ文学とロマン主義(M. エンデ)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 北1-404.第2学期 金曜日 2時限 対面授業		

授業概要

19世紀前半に花開いたロマン主義の考えやアプローチは、その後のドイツ文学にどのように受け継がれているでしょうか。本演習では、ミヒャエル・エンデのファンタジー小説『はてしない物語』(1979)を取り上げ、現実世界と幻想世界の特徴や両者の関係、遊戯の意義などの点を手掛かりに、20世紀版ロマン主義の観点からとらえることもできるエンデの世界に迫ります。

到達目標

- ・M. エンデの作品を原語で読む。
- ・作品を手掛かりに、20世紀のファンタジー文学とロマン主義の関連について理解を深める。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	『はてしない物語』①
第2回	〃 ②
第3回	〃 ③
第4回	〃 ④
第5回	〃 ⑤
第6回	〃 ⑥
第7回	〃 ⑦
第8回	〃 ⑧
第9回	〃 ⑨
第10回	〃 ⑩
第11回	〃 ⑪
第12回	〃 ⑫
第13回	〃 ⑬
第14回	〃 ⑭
第15回	到達度確認

授業方法

感染対策を行いながら対面での授業を考えています。演習形式で行います。遠隔に切り替える必要が出てきた場合はZoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業時に資料を配布します。

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	ジェンダーの視点から文学作品を読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 西1-211.第1学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ヴァイマル共和国時代にはドイツ語圏の作家によるアメリカについてのルポルタージュが数多く発表されています。これらの中からいくつかの作品を取り上げ、ジェンダー、階層、エスニシティなど様々な観点に注意しながら、分析していきます。どの作品を取り上げるかは、参加者の関心を考慮した上で決定します。

到達目標

ジェンダーの視点から文学作品を捉える手法を身につけ、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献購読(1)
第3回	文献購読(2)
第4回	文献購読(3)
第5回	文献購読(4)
第6回	文献購読(5)
第7回	文献購読(6)
第8回	文献購読(7)
第9回	文献購読(8)
第10回	文献購読(9)
第11回	文献購読(10)
第12回	文献購読(11)
第13回	文献購読(12)
第14回	文献購読(13)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回の授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約をしていただきます。その後で理解度に応じて、精読を行います。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキスト範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	ジェンダーと表現		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 西1-211.第2学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

ジェンダーの視点から、テクノロジーと表現について考えていきます。具体的には写真および自動車と女性表現者についての作品分析を行います。どのテキストを取り上げるかは、参加者の関心を考慮したうえで決定します。

到達目標

ジェンダーという視点から芸術を捉える手法を身につけ、その方法を作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献購読(1)
第3回	文献購読(2)
第4回	文献購読(3)
第5回	文献購読(4)
第6回	文献購読(5)
第7回	文献購読(6)
第8回	文献購読(7)
第9回	文献購読(8)
第10回	文献購読(9)
第11回	文献購読(10)
第12回	文献購読(11)
第13回	文献購読(12)
第14回	文献購読(13)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約していただきます。その後の理解度に応じて、西独を行います。

授業方法

対面による演習方式で行います。

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合は、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

講義コード	M350303201	科目ナンバリング	135F614
講義名	ドイツ語史演習(1)(大学院)		
副題	歴史語用論から見たドイツ語史		
英文科目名	Seminar in History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 大学院共同研究室.第1学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

「歴史語用論」(Historische Pragmatik)とは、日常生活において人々がことばをどのように用いて行動を行っていたのか、またそれが時とともにどのように変化したのかを研究する分野です。本授業では、ルターの時代である16世紀以降に日常生活のさまざまな場面においてドイツ語がどのように話されて話し手の意図が聞き手に伝えられたのか、またその様態が現代ドイツ語の場合とどう異なるのかについて考察します。

到達目標

言語史の展開を機械的な変化として捉えるのではなく、それぞれの発話場面においてコミュニケーションする人間の顔とところが見えるような観点で捉える視点を養うこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	【基礎概念】ヨーロッパ的アプローチ:「語用論的フィロロジー」
第3回	【基礎概念】歴史段階の話しことばの再構成(復元)
第4回	【基礎概念】文法化、主観化:命題表現から感情表出表現へ
第5回	【基礎概念】談話標識:発話を巧みに展開させる表現手段
第6回	【基礎概念】呼称(アドレス・ターム):相手をどう呼ぶかという問題
第7回	【基礎概念】ポライトネス:発話者間の力関係・親疎関係による制御
第8回	【ケーススタディ】ルターの論争書・ビラ:カトリックをどう罵倒したのか(16世紀)
第9回	【ケーススタディ】魔女裁判記録のことば:書記官は被告の言動をどう書きしるしたのか(17世紀)
第10回	【ケーススタディ】敬称に踊らされる市民たち(18世紀)
第11回	【ケーススタディ】英独会話帳の中のことば:時計店で店員と客はどのような言語表現で売買したのか(18世紀)
第12回	【ケーススタディ】レッシングの戯曲の中のことば:良家の子女はどのような話し方をしたのか(18世紀)
第13回	【ケーススタディ】『ハイジ』の中のことば:召使いはどのように話したのか(19世紀)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

歴史的段階のテキストであるので、十分に時間をかけて予習する必要があります(90分以上)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	発表

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ハンドアウト作成法や文献検索法については授業内および面談時にコメントします。

参考文献

歴史語用論入門－過去のコミュニケーションを復元する:言語学フロンティア 03,高田博行・椎名美智・小野寺典子,大修館書店,2011

歴史語用論の世界－文法化・待遇表現・発話行為,金水敏・高田博行・椎名美智,ひつじ書房,2014

歴史語用論の方法,高田博行・小野寺典子・青木博史,ひつじ書房,2018

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

LMSはmanabaを使用します。

講義コード	M350303202	科目ナンバリング	135F614
講義名	ドイツ語史演習(2)(大学院)		
副題	歴史社会言語学から見たドイツ語史		
英文科目名	Seminar in History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 大学院共同研究室.第2学期 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

言語は、社会が変容とともに変化します。そのような変化を引き起こす「見えざる手」がいったいどのようなものであったのかを解明しようとするのが、「歴史社会言語学」(Historische Soziolinguistik)です。本授業では、過去1300年のあいだにドイツ語に生じた言語変化や、過去の特定の時代の言語状況を、同時代の社会構造・社会状況と関連づけて理解します。

到達目標

言語史の展開を機械的な変化として捉えるのではなく、社会の変動との関連で捉え、再構築する視点を養うこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	【基礎概念】言語変化における「見えざる手」: Keller (1994) のモデル
第3回	【基礎概念】言語の多様性: 「言語変種」という概念
第4回	【基礎概念】言語の地域差と標準語の形成
第5回	【基礎概念】社会階層による違い
第6回	【基礎概念】言語接触・言語干渉: Weinreich (1966) のモデル
第7回	【基礎概念】言語計画: Haugen (1987) の4段階モデル
第8回	【ケーススタディ】ドイツ語の「師」としてのラテン語(8世紀以降)
第9回	【ケーススタディ】威信言語としてのフランス語(11世紀以降)
第10回	【ケーススタディ】『阿呆物語』の中のことば: 農民と兵士はどのように話したのか(17世紀)
第11回	【ケーススタディ】学校文法による言語の標準化の進展(18～19世紀)
第12回	【ケーススタディ】アメリカに移住したドイツ人「庶民」の書いた手紙(19世紀)
第13回	【ケーススタディ】東ドイツにおける言語管理(20世紀)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

歴史的段階のテキストであるので、十分に時間を可かけて予習する必要があります(90分以上)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	発表

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ハンドアウト作成法や文献検索法については授業内および面談時にコメントします。

参考文献

歴史社会言語学入門ー社会から読み解くことばの移り変わり: 言語学フロンティア 04, 高田博行・渋谷勝己・家入葉子, 大修館書店, 2015

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

LMSはmanabaを使用します。